

町税はまちづくりの貴重な財源です

5月31日までに必ず納めてください！

行政サービスの貴重な財源
 町民のみなさんに納めていただいている税金は、まちづくりの貴重な財源として保健・医療・福祉サービス・公共施設の維持管理などに使われています。



津別町の滞納対策

納税は法律によって定められている国民の義務ですが、税の滞納額が増え続けているのが現状です。町では、滞納者に対して電話や夜間の訪問徴収、督促状や催告書の発布、分納指導などさまざまな徴収対策に取り組んでいます。それでも解消できない場合には税負担の公平性を確保するため、滞納者の財産を差し押さえるといった法的措置も行っています。

国民健康保険税の滞納

特別な理由もなく保険税を納付しない人は、有効期限の短い保険証が交付されます。また、納期限から1年を過ぎても滞納を続けていると被保険者資格証明証が交付され、医療費の全額を支払うことになります。
厳しい姿勢で収納対策
 町では今後とも滞納を予防し、税負担の公平性の維持と行政に対する信頼の確保を図るため、特別な理由がなく滞納し、誠意の見られない悪質な滞納者に対しては、断固たる姿勢で収納対策に当たっていきます。

納税相談・問い合わせ先 役場住民生活課収納係 ☎ 76 - 2151 内線 218



みんな車に気を付けて
 青葉幼稚園で交通安全を学ぶ

4月12日、青葉幼稚園で春の交通安全教室が開催され、町の交通安全担当者が40人の園児たちに、「青になっても左右を確認しましょう」「横断歩道を渡りましょう」「道路に飛び出してはいけません」と呼びかけ、交通安全のぬりえをみんなにプレゼントしました。
 最後に園児たちはアニメビデオ「とびだしチャダメ」を見ながら、道路にはたくさん危険があるので絶対遊んではいけないことを学びました。
 「ドライバーのみなさん、スピードダウンに心がけましょう」。



子どもたちを事故から守る
 西区老人クラブが交通安全啓発

西区老人クラブ（田島利男会長）では地域の小中学生が悲惨な事故に遭わないよう交通安全街頭啓発を行っています。
 啓発活動は15年前から春と秋の年2回実施され、この日も西町寿の家と林石スタンド前には黄色い端を手にしたクラブの皆さんが、横断歩道を渡る子どもたちに「おはよう」と声をかけながら交通安全を呼びかけていました。
 田島会長は、北見津別線は交通量が多く、死亡事故も発生しています。子どもたちが交通事故に遭わないよう今後も啓発を続けていきますと話してくれました。



交通標語小学生の部で最優秀賞を受賞した本間海人君

**悲惨な交通事故の撲滅を誓つ！
 交通安全推進町民大会開催**
 4月12日、町民会館で悲惨な事故の撲滅を誓う津別町交通安全推進大会が開催されました。
 大会には町内の事業所や自治会関係者のほか、子どもやお年寄りなど200名の参加がありました。小中学生を対象にした作文・交通安全標語・イラストの表彰が行われ、佐藤智恵理さん、本間海人くん、柳沢晃羽くん、佐藤ひかりさんら12人が表彰され、佐藤多一町長より表彰状と記念品が送られました。
 その後、交通事故死「ゼロ日運動」の確認と各団体代表者の決意表明が行われました。最後に安全講話として美幌警察署の三室裕好地域交通課長より去年町内で発生した交通事故についての安全講話が行なわれました。



落成式では関係者がテープカットを行いました

丸玉産業株式会社と津別単板協同組合が、昨年6月から着工し、建設を進めてきた第2工場が完成。3月28日に落成式が行なわれました。
 落成式では、関係者によるテープカットのあと、丸玉産業株式会社大越修治社長がスイッチを入れ、機械を作動させました。完成した工場の総工費は85億円で広さは約2万5千㎡に及びます。カラマツとトドマツを原料に年間9万3千㎡の合板を生産し、第1工場と合わせると年間18万㎡になります。特にバイオマスエネルギーセンターは両施設から排出される樹脂や木くずを工場の燃料として利用できることで化石燃料を一切使わず、1次エネルギー使用量の削減と二酸化炭素の排出量の削減にも大きな貢献となります。

バイオマス燃料として有効活用
 単板と合板の第2製造工場が落成



大きな声で「いただきます」
 新1年生がはじめての給食

4月12日は活汲小学校、4月13日は津別小学校で新1年生が初めての給食を味わい、「とてもおいしい」「たくさんおかわりするよ」と元気な声があがりました。
 津別小学校（堀一雄校長）の新1年生43人は、4人の先生に給食センターの調理員さんたちが腕によりをかけた給食メニューのご飯・味噌汁・牛乳に「豚肉のクルミ炒め」と「小松菜ナムル」を食器によそってもらった後、児童たちは元気に「いただきます」と声を合わせ初めての給食をお腹いっぱい楽しみました。
 ほとんどの児童たちがおかわりをするなど教室の中はおいしそうなおいと笑顔であふれていました。

佐藤多一町長と地域担当連絡員が各自治会を訪問し、町民の方と津別の将来について直接意見交換を行うまちづくり懇談会が4月16日からスタートしました。
 初日の活汲地域農業研修センターには、活汲第1と活汲中央自治会の15人の方が参加し、上野住民生活課長から「津別町のしごと」を参考に19年度の予算や財政状況の説明を受けました。意見交換では「あいおい道の駅の名前について」「津別高校の振興対策について」「今後の農業情勢について」など多くの意見や質問が出されました。
 まちづくり懇談会は6月末まで予定されており、町では多くの方の参加を呼びかけています。



直接対話を全自治会で
 まちづくり懇談会がスタート！